

第 18 回吹田貨物ターミナル駅調整会議 議事要旨

1. 日 時：2026 年 6 月 23 日（火） 14：50 ～ 15：20
2. 場 所：JR 貨物 吹田貨物ターミナル駅 3 階大会議室
3. 出 席 者：別紙出席者名簿参照
4. 議事内容

(1) 吹田貨物ターミナル駅調整会議の経緯について、JR 貨物が説明しました。

- ・吹田貨物ターミナル駅の建設事業を着手する際に、「①年間貨物取扱量推移」、「②中継コンテナ取扱量推移」、「③吹田貨物ターミナル駅専用道路通行台数」等の制限を着手合意協定書で定めており、本会議はそれらの実績報告その他議論をする場となります。

(2) 吹田貨物ターミナル駅および大阪圏 4 駅の令和 7 年度貨物取扱量について、JR 貨物が【資料 1】に基づき説明しました。

- ・吹田貨物ターミナル駅の貨物取扱量は、令和 7 年度は年間 79 万トンで、前年度より減少しました。サイバー攻撃の影響により、駅に隣接するアサヒビール様のご利用が低調となりました。協定の遵守事項である年間 100 万トン以内となっています。
- ・その他 3 駅の貨物取扱量については、概ね横ばいとなりました。

(3) 吹田貨物ターミナル駅の令和 7 年度中継コンテナ取扱量の推移について、JR 貨物が【資料 2】に基づき説明しました。

- ・令和 7 年度の中継コンテナ取扱量は 36 万トンで、昨年度より減少しました。協定の遵守事項である年間 45 万トン以内となっています。

(4) 吹田貨物ターミナル駅専用道路の令和 7 年度の通行台数について、JR 貨物が【資料 3】に基づき説明しました。

- ・1 日の最大通行台数について、9 月に記録した 672 台／日が最大通行台数でした。協定の遵守事項である 1 日 1,000 台以内となっています。
- ・9 月に最大通行台数を記録した理由は、前後の期間に東海道・山陽線の各地で大雨に伴い列車の運休及び遅れが発生し、トラックの運行に偏りが生じたためです。
- ・次いで 3 月に 671 日／台を記録しておりますが、これは年度末の引越繁忙期によるものです。
- ・13 時から翌日 13 時までで 1 日分として集計しており、台数が多い日は、1,000 台を超えないよう、管理しています。

5. その他

会議後、出席された皆様に吹田貨物ターミナル駅構内をご見学いただきました。

<質疑応答>

(自治会：自 JR 貨物：貨)

Q(自)：2025 年度はアサヒビールの輸送が減少したとのことですが、吹田貨物ターミナルにおいてどのくらいの割合を占めるのですか。

A(貨)：主要なお客様の順位では、発着とも 1 位福山通運、2 位西濃運輸です。発送コンテナにおいてアサヒビールは 4 位、到着コンテナでは 5 位です。

Q(自)：吹田市内のアスクルさんの倉庫には吹田貨物ターミナル駅からどのくらい入っていますか。

A(貨)：数としては多くなく、摂津市の大阪貨物ターミナル駅の方からより多く入っている状況です。

Q(自)：より近い吹田貨物ターミナル駅から入らないのはどうしてですか。

A(貨)：着手合意協定に規定されたルートにより、トラックの運行が遠回りとなってしまうため、利用運送事業者が大阪貨物ターミナル駅を選択することが多いためです。

Q(自)：「中継コンテナ」とは何ですか。

A(貨)：列車を乗り換えるコンテナです。例えば、北海道から吹田貨物ターミナル駅に到着し、貨車からフォークリフトで取卸し、別の貨車に積み込み、九州へ向かうコンテナがあります。

以 上